

2023年度

科目名称	動物園学
授業コード	AC351
英語名称	Zoo Science
学期	2023年度後期
単位	2.0
担当教員	佐渡友 陽一 (生命環境学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	動物園は、野生動物を都市に持ち込み、展示する施設である。動物園が成立、存続するためには、野生動物の生息環境との関わりや、都市における動物園の意義を考えなければならない。「社会における動物園の存在意義」「動物園はどうあるべきなのか」について、公立動物園で教育普及や予算決算等に従事してきた教員が、その経験を活かして実証的に講義する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	公立動物園で教育普及や予算決算等に従事してきた教員が、その経験を活かして、動物園が日本社会においてどのような意味を持ち、運営されているかを実証的に講義する。
到達目標	<p>社会における動物園の位置づけと、よりよいあり方を考慮するための視点を獲得する。動物園に関係する多様な意見を学ぶことを通じて、各自の動物園観を検証すると同時に、動物園というものに関与する場合の社会的責任について自覚を養う。</p> <p>カリキュラムポリシー： 3. 学年進行に伴って「人と動物の『共生』」についての科学的な専門知識と調査・研究手法を身につけるための授業科目をバランスよく学べるように編成する。</p> <p>ディプロマポリシー： 3. 「人と動物の『共生』」についての諸問題に関心をもち、合理的な視点から分析・理解して問題解決に寄与できる能力を身につけている。</p>
計画・内容	<p>1) 動物園学 1：何のための動物園か。動物園を取り巻く環境とは 予習：教科書の「はじめに」「第1章」（29ページまで）を熟読し、小テストに備える</p> <p>2) 動物園学 2：動物園の経営資源。誰が、何のためにカネを出すのか？ 予習：教科書の「6.1」「2.1」「2.2」を熟読し、小テストに備える</p> <p>3) 歴史 1：動物園前史と欧州・米国・日本における動物園の成立 予習：教科書の「2.3」～「2.8」（50～93ページ）を熟読し、小テストに備える</p> <p>4) 歴史 2：日本における動物園の広がりや発展 予習：教科書の「6.2」「6.3」「2.10」を熟読し、小テストに備える</p> <p>5) 歴史 3：ワシントン条約・パンダ・展示革命～現代の動物園に至る道 予習：教科書「2.9」「5.2」を熟読し、小テストに備える</p> <p>6) 経営 1：現代日本における動物園の利用者と設置者の実像 予習：教科書「3.4」「7.1」を熟読し、小テストに備える</p> <p>7) 収集と保全：動物園を成り立たせるために 予習：教科書「3.1」「3.2」「3.3」「3.5」を熟読し、小テストに備える</p> <p>8) 飼育と動物福祉：動物園が存続するために 予習：世界動物園水族館保全戦略の前半（33ページまで）を熟読し、小テストに備える</p> <p>9) 展示：動物園が魅力的であるために 予習：教科書「4.1」～「4.5」を熟読し、小テストに備える</p>

2023年度

<p>計画・内容</p>	<p>10)教育：動物園は何を、どうやって伝えるのか 予習：世界動物園水族館保全戦略の後半（34ページから）を熟読し、小テストに備える</p> <p>11) 法律：動物園を取り巻く法制度 予習：教科書「4.6」「5.1」を熟読し、小テストに備える</p> <p>12) 経営2：動物園の類似施設と社会的環境 予習：教科書「7.2」～「7.5」を熟読し、小テストに備える</p> <p>13) 経営3：欧米における動物園経営 予習：世界動物園水族館動物福祉戦略の前半（43ページまで）を熟読し、小テストに備える</p> <p>14)動物園学3：動物園はいかにあるべきか 予習：世界動物園水族館動物福祉戦略の後半（44ページ以降）を熟読し、小テストに備える</p> <p>15)まとめ：これまでの講義内容について、理解度を確認する</p>
<p>授業の進め方</p>	<p>・ CampusSquareでレジユメを配布し、必要に応じてスライドを利用して講義を進める。</p>
<p>能動的な学びの実施</p>	<p>該当しない</p>
<p>授業時間外の学修</p>	<p>・ 毎回の小テストは復習問題と予習問題から構成し、WebClassで提出を求めると、教科書の指定範囲を熟読して予習を行うと同時に、配布資料と講義ノートを整理し学習を深めること。（合計60時間程度）</p>
<p>教科書・参考書</p>	<p>予習を通じて、以下の教科書を通読する。 ・ 日本の動物園、石田おさむ、東京大学出版会、4,400円</p>
<p>成績評価方法と基準</p>	<p>成績は、 毎回課す小テスト（第1～14回各5点、第15回30点）に、 講義への積極的な参加（発言や質問等）を加味して、総合的に評定する。</p>
<p>課題等に対するフィードバック</p>	<p>・ 小テストについては、次回授業開始時にフィードバックを行う。 ・ 学生からの質問については、LINEのオープンチャットを中心にフィードバックを行う。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>・ CampusSquareを参照</p>
<p>留意事項</p>	<p>・ 動物園水族館基礎論を履修済であること。 ・ 学芸員課程を履修していることが望ましい。 ・ 動物園について卒業研究を行う可能性のある学生は、必ず履修すること。特に動物観・動物園学研究室（担当：佐渡友）で動物園の研究を行なう場合には、本科目の単位取得が必須である。 ・ 第15回の小テストは全体に関する内容であり、配点が高いので留意すること。</p>
<p>非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」</p>	<p>授業の進め方 ・ 小テストのフィードバックを含めた前半分はリアルタイムZOOMで行った上で、講義内容について動画配信する。</p> <p>成績評価方法と基準 ・ 原則として変更はないが、まとめの小テストを含めてWebClassで提出を求める。</p>